著書を語る

『中山間地域ハンドブック』
再生から未来への創造

［農文協刊］

野中和雄

いま中山間地域が注目される五つの視点

日本人のふるさとであり原風景でもある中山間地域。国土面積の七割、農業生産でも全国の四割を占める地域であり、農林業生産だけでなく、豊かな自然や美しい景観、伝統文化など多面的な機能の面でも重要な役割を担っている。ただ平坦な耕地が少ないなど農業の生産条件が不利で、過疎化・高齢化が進行し、かつては「限界集落」という言葉がマスコミを賑わした。だが近年、中山間地域を取り巻く内外の情勢は大きく変貌しており、今や中山間地域は再生から創造へ新しい時代を迎えつつある。

第一に、わが国では東日本大震災などを契機に地方分散型社会の重要性が認識されるとともに、国民の価値観の多様化により「田園回帰」の潮流も拡大している。こうした中で、再生可能エネルギーなどの資源も豊富であり、「自己実現の場や新しいビジネスモデルやイノベーションが生まれる課題先進地域」でもある中山間地域が「可能性に満ちたフロンティア」として注目されている。

第二は、中山間地域は、農業、医療、教育などの条件が不利だと言われてきたが、デジタル技術の進歩はこれを大幅に改善しつつある。国の「デジタル田園都市国家構想」では、「『デジ活』中山間地域」のビジョンが提示されることになっており、スマート農業、遠隔教育、遠隔医療などデジタル変革により中山間地域がさらに魅力的な地域になることが展望されつつある。

第三に、グローバル化により際限なく市場開放が進む中では、条件不利地域の農業経営に明るい展望が描けなかった。しかし、近年、TPP11、日EU・EPA、日米貿易協定、RCEPが相次いで発効し、国内農業への影響は懸念されるものの、米、畜産物など重要品目の保護を含め市場開放に当面一定の歯止めがかかった意義は大きい。欧米の農業のグリーン化戦略が進んでいることも追風になる。

第四に、これまでの農村政策では、中山間地域においても大規模な効率的農業経営の育成に重点が置かれてきた。しかし新しい「食料・農業・農村基本計画」（二〇二〇年三月閣議決定）では、農村での副業・兼業など「本格的な営農に限らない多様な農への関わり」も支援していくこととされ、今後多様な農的ライフスタイルの地域づくりが期待できるようになった。

第五に、中山間地域の振興と言えば、これまで政策も研究も経済面に重点を置いてきた。しかし、近年、農村景観の文化的価値が世界的に再認識されるとともに、田園回帰や関係人口が広がる中で伝統文化に磨きをかけた新しい地域文化が創造されつつある。こうした新しい「田園文化」は地域の自信と誇りの形成、さらには新しい地域ブランドの特産品や産業育成に大きな効果を発揮するに違いない。

わが国初の中山間地域〝白書〟

中山間地域は、このように今や「再生から未来への創造」に向け新たな展開を始めており、コロナ禍での国民の地方への関心の高まりも踏まえて、中山間地域の新時代を切り拓いていく大事な時機にあるのだが、中山間地域フォーラムの活動を通じて痛感するのは、地域で活動する人たちの間でそうした最新の情報が十分共有されていないのではないかということである。そこで、中山間地域フォーラムとしては、地域おこし活動に携わる地域リーダー、自治体職員、地域おこし協力隊員、大学生、高校生などの活動のテキストとなるよう、また広く国民の皆様に中山間地域についての理解を深めていただきたいとの思いから本書「中山間地域ハンドブック」を編集した。

内容は農村での実践活動にも取り組む第一線の研究者やジャーナリスト、地域リーダー、元町長、元行政官などが協力して執筆。中山間地域の歴史と課題、データ分析に続いて、「田園回帰」「地域運営組織」「田園文化」「農山漁村発イノベーション」「半農半X」「関係人口」「自治体農政」など三六テーマで課題を解説しており、教育・福祉、ツーリズムなどを含む幅広い論点を提示している。また、島根県邑南町、高知県梼原町など全国のユニークな事例や生源寺眞一氏、佐藤洋平氏、太田信介氏ら経験豊かな有識者一一名の刺激的な提言も盛り込んでいる。いわばわが国初の中山間地域「白書」、中山間地域おこしの教科書であり、考えるヒント満載の内容になっている。

なお、本書は、中山間地域フォーラムの活動を応援してくださった一市民の方の御遺贈金を活用させていただくとともに、中山間地域フォーラムの関係者がボランティアで執筆・編集し、価格も抑えているので、若い人にも広く手に取っていただくことを願っている。

◎「中山間地域ハンドブック」を二〇名様にプレゼント致します。ご希望の方は、「中山間地域ハンドブック」希望として、官製はがきまたはメールにて117ページの宛先まで住所、氏名、性別、年齢、職業、勤務先を記入し申し込んで下さい。

PROFILE

野中和雄（のなか・かずお）

富士山麓の湧水が豊かな静岡県三島市出身、東京大学教養学部教養学科（文化人類学専攻）卒業、在学中の農村調査で感銘を受け、農林水産省に入省。在米大使館1等書記官、環境庁水質保全局長、農林水産技術会議事務局長、構造改善局長などを歴任。広島県農政部長へ出向時には農村現場を頻繁に訪れて若者・女性などの農業者と意見交換し「いきいき農業ひろしま」運動を推進。退官後、農林水産省農業総合研究所長、水資源開発公団副総裁、水資源機構副理事長、（財）農政調査会会長などを歴任。放送大学で市民向け講座を開設、青山学院大学で有識者とともに開設している講座「日本の農業農村とビジネス」（全15回）は好評で2010年以来継続中。中山間地域フォーラムの創設に参加し現在、副会長。公益社団法人国際農業者交流協会会長

コラム　中山間地域フォーラム

中山間地域に熱い思いを寄せるさまざまな分野の専門家や経験豊かな実務家など産学民官の有識者が集まり、ボランティアで活動する団体として二〇〇六年に創設。その後二〇一二年に特定非営利活動法人になる。

中山間地域に関する実証的学際的な調査研究及び政策提言、地域の支援及び協力、人材の育成、ネットワークの形成、国民的な情報発信などを活動の柱としており、特に毎年、東京大学弥生講堂などで開催するシンポジウムには、全国から多くの参加者があり、活発な議論を展開している。最近の政策提言としては、「総合的な農村政策の再構築を！――食料・農業・農村基本計画の改定に関する緊急提言――」（二〇一九年十一月）がある。また随時に研究会を開催するほか、岩手県西和賀町など地方の市町村や集落の要請を受けて運営委員がボランティアで訪問し地域づくりの支援活動を行っている。

初代会長は、佐藤洋平東京大学名誉教授、現会長は、生源寺眞一福島大学教授。会報として「中山間地域フォーラム」を発行。中山間地域に関心のある方なら誰でも入会できる。また支援希望の市町村も募集している。

●ホームページ
http://www.chusankan-f.org
●メール連絡先
tebento-staff@chusankan-f.org